

平成31年度（令和元年度） 学校評価表

品川区立大井第一小学校

校長 藤森 克彦

大井第一小学校校区教育協働委員会

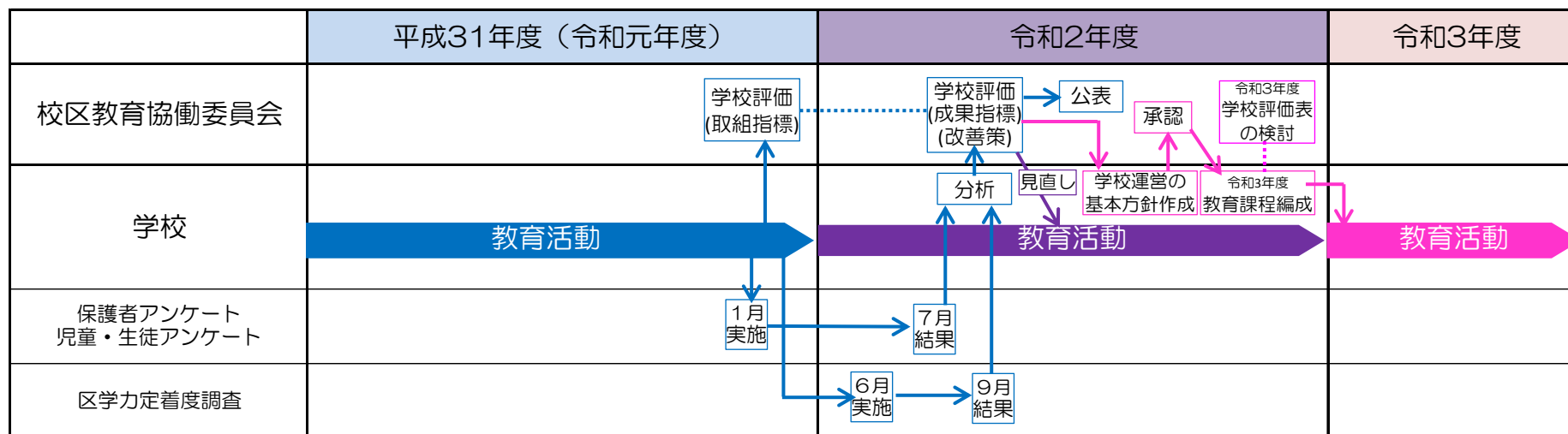
委員長 佐々木 文彦

校区教育協働委員会は、品川区校区教育協働委員会設置要綱（改正 平成31年3月28日教育長決定要綱第8号）に基づき、次に掲げる事項について、学校評価を行っています。

- (1) 学力に関すること。
- (2) 人間性や社会性に関すること。
- (3) 体力・健康に関すること。
- (4) いじめ防止の取組に関すること。
- (5) 特色ある教育活動に関すること。

学校評価を行う際、評価項目ごとに「成果指標」と「取組指標」を設定し、取組状況と取組によって表れた成果について把握しています。学校評価により浮き彫りになった学校の課題を委員会で共有し、改善策を考えました。学校評価の結果を公表するとともに、今年度の取組の見直しや来年度の教育課程の編成に生かしていきます。

学校評価の流れ（※平成31年度（令和元年度）の学校評価が令和2年度および令和3年度の教育活動につながる部分のみ表記しています。）



平成31年度 学校評価 品川区立大井第一小学校

評価項目1 学力に関すること

重点目標		○義務教育後期課程につながる、生きて働く力の基礎となる、学力の定着・向上を図る。 ・基礎基本の確かな定着を図るために、学力向上部による児童の実態把握をして、系統的な指導を徹底する。 ・東京ベーシックドリル等を活用し、基礎・基本となる学力を身に付けさせる。 ・校内研究を通して、多様な意見が出る授業を行い、自分の考えをもつことができる児童を育成する。		
評価指標	最上段:成果指標	最上段:成果指標の達成状況の説明	評価	今後の課題と改善策
	2段目以降:取組指標	2段目以降:取組指標の達成状況の説明		
①	全国(6年)、都(5年)、区(2-6年)の各学力調査において、全教科・領域で各平均値、目標値を上回る。	<ul style="list-style-type: none"> すべての科目において目標値を上回っている。 教員の授業内の取り組みに加え、学校図書館経営が充実していることが学力向上に寄与していると考えられる。 	A	<ul style="list-style-type: none"> すべての教科において「考える学び」「学び合う学習」が実践されていることが目標達成につながっている。今後とも推進していただきたい。 読書指導により語彙が身に付き、豊かな思考と表現力に生かされている。引き続き読書体験の充実に注力をいただきたい。
	教務部を中心に各学力調査結果を考察し、重点目標や授業改善策を明らかにして全学年・学級で意図的な授業を行い、基礎・基本となる学力を身に付けさせる。	<ul style="list-style-type: none"> 単に知識を覚えるのではなく考える指導を心がけていること、理科において実技と知識の両面でフォローがなされていること、学力低位の児童の指導にさまざまな工夫がなされていることなど、意欲的な取り組みがなされている。 	B	
②	単元末・学期末テストで、目標値(80%以上)を身に付けている児童80%を目指す。(国語・算数・理科)	<ul style="list-style-type: none"> 目標に達するまで繰り返して学習することを促すなど、知識を確かなものにするための努力が実っている。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 児童一人一人の学習の進み具合に応じてきめ細かな指導が行われている。児童が繰り返し学ぶことが出来るのは、教員の粘り強い指導の賜物である。引き続き熱意あふれる指導を継続していただきたい。 学力の高い児童をさらに伸ばす指導にも意を用いていただきたい。
	東京ベーシックドリル、診断シート・学期末テストを活用し、学力を定期的に掌握するとともに、個々に応じて「立ち返りの指導」「繰り返しの指導」等個別指導を徹底する。	<ul style="list-style-type: none"> 東京ベーシックドリルの活用が十分でなかったという反省を踏まえ、どうすれば活用が促進されるか検討していただきたい。 BYODの全面導入に向けて、児童個々の学習到達状況と課題を把握し、個々の指導を充実させる体制づくりに期待する。 	B	
③	学校生活アンケート(5月、10月実施)、設問④「学校は授業への興味・関心を高める工夫をしている」において肯定的な回答80%以上を目指す。	<ul style="list-style-type: none"> ICTの推進、学び合う学習、皆で考える授業など、さまざまな実践の取り組みが実を結んでいる。 	A	<ul style="list-style-type: none"> タブレット端末を活用した教育を推進し、児童の興味・関心を高めるとともに、個々の学習進度の把握と個別指導の展開に取り組んでいただきたい。 ICT導入による教え方・学び方の開発については連携校との情報共有を行い、保護者へも情報発信しながら協力を仰ぐ必要がある。
	校内研究「多様な意見が出る、楽しい授業」を通して「自分の考えをもつことができる」児童の育成、「多様な意見が出る授業ができる」教員を目指す。	<ul style="list-style-type: none"> 教科書の内容にとどまらず、発展的内容を考えたり、多様な意見を出し合うことができるようにするために、個々の教員が意欲的に取り組んでいる姿がうかがえる。 	A	

A=十分達成できた B=おおむね達成できた C=未達成

評価項目2 人間性や社会性に関すること

重点目標		○義務教育9年間を見通し、社会の一員としてよりよい生活や人間性を築く。 ・「あいさつ隊」等の取組を通して、気持ちの良い挨拶、明朗快活な返事、正しい姿勢、礼節ある言動を身に付けさせる。 ・「大スタンダード」の実践を通して、規範意識を育て、態度や価値、実践力を育む。 ・代表委員会の活動・クラブ活動・フレンドタイム等の取組を通して、高学年児童のリーダーシップを育成する。		
評価指標	最上段:成果指標	最上段:成果指標の達成状況の説明	評価	今後の課題と改善策
	2段目以降:取組指標	2段目以降:取組指標の達成状況の説明		
①	学校生活アンケート(5月、10月実施)、設問③「子どもたちは挨拶や黙礼をしっかりとっている」において肯定的な回答80%以上を目指す。	・きちんと挨拶が出来ている場面もあれば、出来ていない場面があるようで、引き続き指導の取り組みが必要である。	B	・挨拶のような基本的な生活習慣は学校内での指導だけで身につくものではない。家庭の協力を要請する必要がある。 ・挨拶はコミュニケーションの基礎である。なぜ挨拶が必要なのか、基本的な考え方に関する指導が引き続き必要である。 ・コロナ禍においてコミュニケーションの困難さとそれを解決する重要性が増している。マスク越しの挨拶にも気持ちを込めたい。
	児童が気持ちよく挨拶・会釈することができ、時と場に応じて礼節のある言動をとれるよう指導する。	・教員の挨拶に対する姿勢は非常に素晴らしい。教員自身の実践が今後児童に浸透していくと考える。 ・教員は挨拶の意味を説明してみんなで考えたり、来客時の挨拶指導をするなど、熱心に取り組んでいるが、必ずしも児童の行動に結びついていないと思われる面がある。	B	
②	学校生活アンケート(5月、10月実施)、設問②「子どもたちは『大一のきまり』を守って学習や生活をしている」において肯定的な回答80%以上を目指す。	・「きまりを守れる児童と守れない児童がいる」「学年が上がることでかえってきまりを守れない児童が出てくる」このような事態をどう考えたらよいか、学年に応じて児童と話し合ってみる必要がありそうである。	B	・当たり前のきまりを当たり前のように守ることは、さまざまな発達段階にある児童において必ずしも容易なことではない。 ・たくさんあるきまりの一つ一つに「守るべき理由がある」ということを語り合うことが、強制されずに自発的に守るための動機づけにつながるのかもしれない。
	児童が、「大一のきまり」を守って学習や生活をし、家庭・地域、日常生活に生かせるよう指導する。	・多くのきまりがあって指導が大変であるが、一つ一つのきまりの意義を理解させることを含め、引き続き取り組んでいただきたい。	B	
③	全国学力学習状況調査の児童質問紙の設問「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」において肯定的な回答80%以上を目指す。	・「人の役に立ちたい」「リーダーシップをとれる人間になりたい」と思う児童が多く、教員の取り組みも十分なされているが、まだ改善の余地がある。	B	・教員は、「友達の良いところを紹介する」「模範となる児童をしっかりとほめる」「人の役に立つことの成功体験をさせる」など、さまざまに取り組んでおり、その雰囲気づくりにも意を用いている様子が伺える。 ・ほめられている子を見ている児童がどのように成長するか、個性を尊重しながらの指導を継続していただきたい。
	学校行事、代表委員会やフレンドタイム等の主体的活動、異学年交流活動を通して、自己有用感、高学年のリーダーシップを育てる。	・異学年の交流がスムーズに行われるのは素晴らしい。上級学年はもっている力を遺憾なく発揮して行って欲しい。	A	

A=十分達成できた B=おおむね達成できた C=未達成

平成31年度 学校評価 品川区立大井第一小学校

評価項目3 体力・健康に関すること

重点目標		○健康・安全に関する指導を通して、自ら進んで健康の保持と安全に努める能力と態度を育成する。 ・朝の時間や体育朝会を利用してコーディネーションに取り組み、体力向上を図る。 ・スポーツトライアルについて、運動委員会による体育朝会や、学級ごとに取り組み、また、マラソン週間ではマラソンカードを活用して、体力向上を図る。		
評価指標	最上段: 成果指標	最上段: 成果指標の達成状況の説明	評価	今後の課題と改善策
	2段目以降: 取組指標	2段目以降: 取組指標の達成状況の説明		
①	東京都体力運動能力調査では、本区の平均以上の数値である種目が、各学年において半分以上であることを目指す。	【評価なし】		・今後も、コーディネーションを継続し、体力向上を図る。
	朝の時間や体育朝会を利用してコーディネーションに取り組み、体力向上を図る。	・コーディネーションが習慣化されたことは評価に値する。 ・運動能力の向上だけでなく、体幹を鍛えてけがや病気になりにくい体をつくるという意識を持たせる指導を続けてほしい。	B	
②	東京都体力運動能力調査の結果に基づき評価・考察し、日常の体力向上の取組に生かす。	【評価なし】		・学級間の取組の差を少なくすることが課題である。全校で集中して取り組めるよう、体力向上月間を活用して、クラスおよび縦割りの色別対抗の実施などを検討していく。
	体育朝会や学級ごとにスポーツトライアルに取り組んだり、マラソン週間を通して、体力向上を図る。	・チャレンジジャンプの成果を掲示をする等の工夫がみられ、教員の指導で力が着実に伸びているが、課題・改善の余地があり、引き続きの努力を要する。	B	

A=十分達成できた B=おおむね達成できた C=未達成

評価項目4 いじめの防止の取組に関すること

重点目標		○全教育活動を通して、自尊感情を育てるとともに、自他の生命を尊び、あらゆる偏見や差別をなくし、人権を尊重する態度を育成する。 ・「伝え合い、学び合う授業」を通して、友達のものの見方や考え方の多様性にふれ、相互に相手を尊重し合う心を養う。 ・日常の全教育活動での児童観察、生活アンケートの実施、SCの面談(5年全員)等を通して児童の人間関係を把握し、「いじめ対応委員会」を中心に全教職員でいじめの早期発見と解決を目指す。 ・人間的ふれあいのある豊かな体験活動を通して、困難に負けない「強い心」を育む。		
評価指標	最上段:成果指標	最上段:成果指標の達成状況の説明	評価	今後の課題と改善策
	2段目以降:取組指標	2段目以降:取組指標の達成状況の説明		
①	生活アンケート(5月、10月、1月実施)、設問「友だちと仲良くしていますか」において肯定的な回答80%以上を目指す。	・市民科の授業、帰りの会など、さまざまな場面で思いやりの気持ちを醸成する指導が行き届いているが、「これで十分」ということはないことを肝に銘じなくてはならない。	B	・いじめを許さない意識は児童にも浸透しているが、いつ起きても不思議ではないのがいじめである。児童の成長を促すさまざまな人間関係の中には対立的な関係も含まれ、必要なものでもあるから、「いじめを許さない」という意識とともに「いじめはいつでも起こり得る」という危機感も併せもつことが重要である。
	いじめは相手の人権を無視した犯罪行為であることを自覚させ、市民科の人間関係形成領域の学習を重点に行い、いじめ根絶を目指す。	・すべての学年において「いじめは絶対に許さない」という指導が徹底されており、あわせて人間関係のルールや常識を身につけることにも指導が及んでいる。	A	
②	生活アンケート(5月、10月、1月実施)の結果や日常の行動観察を通して、いじめを早期発見し、解消率を100%にする。	・小さな変化も見逃さず、児童と教員間の情報共有にも努めている。	B	・「早期発見」のためには児童が自分自身の気持ちを言葉で伝えることが大前提であるが、低学年においてそれを意識した指導が行われていることは素晴らしい。自分の非を認めて謝ることで人間関係を修復する体験がいじめを未然に防ぐことにつながる。 ・「いじめはなくなる」ということをネガティブに捉えるのではなく、「人の弱さ」の一面として自然なことで受け止め、トラブルが生じた時にどう対処するかを話し合うことも大切である。そのためには家庭の理解と協力も必要である。
	・いじめの早期発見・早期解決に努め、児童の一人一人を細やかに観察し、保護者と連絡を密にし、校長中心に全校体制で対応する。 ・「生命を大切に学習」等を通して、自他ともに大切にしようという気持ちやコミュニケーション能力を育て、いじめのない学級、学校を築く。	・各学年において児童の様子を細やかに観察し、保護者と連携して見守る体制ができている。 ・学年全体、学校全体で情報共有を密にし、組織的に対応できていることを評価する。 ・保健室に来室した児童に対して患部以外にも目を配り、ちょっとした発言にも耳を傾けるなど、児童一人一人を丁寧に観察し、把握しようと努めている様子が伺える。	A	

A=十分達成できた B=おおむね達成できた C=未達成

評価項目5 (特色ある教育活動に関すること)

重点目標		○地域や保護者の理解のもと、教育活動を行っていく。 ・ホームページ上で、各種行事や各学年の取組、学力定着状況など、学校教育に関する様々な情報を速やかに公開し、保護者が本校の教育活動を理解できる機会を提供する。 ・正門掲示板には、教育活動の様子を写真や文章で伝えたり、行事の案内を載せたりして、地域の人々の学校教育への参画意識を高める。		
評価指標	最上段: 成果指標	最上段: 成果指標の達成状況の説明	評価	今後の課題と改善策
	2段目以降: 取組指標	2段目以降: 取組指標の達成状況の説明		
①	学年・学級便りは月1回以上発行する。HP、掲示板の更新は各行事実施後や月1回以上行う。	・学級便りで詳細な情報が発信されており、保護者がクラスの様子を理解するのに役立っている。	A	・今後とも学級だより、学年だよりを発信し続けていただき、さまざまに情報共有をする中で、「ICT教育への家庭の協力」「挨拶の取り組み」「いじめの早期発見」等、学校としての教育力の向上に努めていただきたい。
	学校、学年・学級だより、運動会等行事の取組通信、また、HP、掲示板など様々な機会を活用して有用な情報を発信する。	・学校だより、学年便り、学級便り、の発行はありがたい。 ・学校の様子が分かることで保護者の協力につながっている。	A	
②	ボランティア登録数を100人以上にする。	・ボランティアと教育活動を繋ぐ役割としてコーディネーターが十分に機能している。	A	・大井第一小学校は従来から地域との関係を密にしながら発展してきたが、長沼コーディネーターの活躍により、地域人材の活用がより促進され、より一層教育の幅が広がった。コミュニティ・スクールとしてさらに発展していきたい。
	保護者・地域人材・文化・施設や人材の活用を積極的に行い、保護者・地域の力を学習に十分活用する。	・多くのボランティアの協力を得て地域学習をはじめ未来塾・茶道教室など、多様な教育機会が与えられている。	A	

A=十分達成できた B=おおむね達成できた C=未達成